

映画で考える 多様性と共生 / 第7回

『リトル・ダンサー』授業ガイド

「らしさ」の思い込み —— 「『好き』に、性別は関係ない。」

教員用・指導資料（対象：小学校高学年以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	「らしさ」の思い込み（性別による役割の決めつけと、だれかの「好き」を支える力）
教材映画	『リトル・ダンサー』（原題 Billy Elliot／2000年・イギリス／監督：スティーブン・ダルドリー／脚本：リー・ホール）
対象	小学校高学年以上。映倫G。乱暴な言葉づかいや、ストライキをめぐる警察との衝突の場面がある
時間	標準90分（45分×2）。上映111分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	性別による「らしさ」の思い込み／思い込みは言う側もしばる／1984年の炭鉱ストライキ／夢を支える周りの力
ねらい	身の回りの「〇〇らしさ」の思い込みに気づき、自分や他者の「好き」を大切にする態度を育てる
準備物	児童・生徒用ワークシート（別PDF）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 性別・性のあり方にふれる際の配慮

日本の映倫はGですが、**乱暴な言葉づかい**や、ストライキをめぐる警察との衝突の場面があります。

- 「男らしさ／女らしさ」を扱う際、**特定の子どもに注目が集まらない**ようにする。
- 親友マイケルの描写を扱う場合は、**性のあり方の多様性**にふれることになるため、からかいや詮索につながらないように配慮する。
- 母を亡くした家庭が描かれるため、家族に関する体験の発表は強制しない。
- 炭鉱ストライキの時代背景を簡単に補う。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 炭鉱ストライキと「らしさ」（予備知識）

1984年の炭鉱の町

1984年のイギリスでは、政府が炭鉱の閉鎖を進め、炭鉱で働く人たちは長いストライキ（仕事を止めて抗議すること）を続けていました。物語の舞台は、イングランド北部の炭鉱の町。男たちは炭鉱で働くのが「当たり前」とされ、ストライキ中は給料が入らず、生活はとても苦しくなりました。

思い込みは言う側もしばる

「男がバレエなんて」と反対した父は、ビリーの踊る姿を見て、息子の夢を支えようと決意します。この思い込みは、ビリーだけでなく、父自身もしばっていたのかもしれません。苦しい生活の中でも、町の人たちがビリーのために力を合わせる場面もあります。

💡 ミュージカルにもなった物語

2005年にロンドンでミュージカル版が始まり、音楽はエルトン・ジョンが担当しました。日本など世界各地で上演され、2024年には日本で映画のデジタルリマスター版も公開されています。

「らしさ」の思い込みに気づく4つの視点（板書用）（板書用）

① どこから来た？

「〇〇らしさ」は、だれが、いつ決めたもの？

② だれを苦しめる？

言われる人も、言う人も、しばられていないか。

③ 「好き」を大切に

自分の「好き」を、性別で決めていないか。

④ だれかを応援する

周りの支えが、夢をかなえる力になる。

🎯 この授業の到達目標

身の回りの「〇〇らしさ」の思い込みを具体的に挙げ、その思い込みがだれを苦しめるかを考え、だれかの「好き」を支える行動を挙げられる。

4 90分授業の流れ（45分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-8分	導入	「男の子らしい／女の子らしい習いごと」と聞いて思い浮かぶものは？（軽く）
8-15分	背景	1984年の炭鉱ストライキと、舞台となる町を紹介。
15-45分	映画を観る①	ビリーがバレエに出会う場面、先生に才能を見いだされる場面（クリップ）。
45-65分	映画を観る②	父がビリーの踊りを見て変わる場面（クリップ）。
65-82分	ワーク記入	「らしさ」の思い込みと、だれかの「好き」を支える行動を考える。
82-90分	共有・まとめ	板書「『好き』に、性別は関係ない。」で締める。

🌱 まとめ

「男の子なんだから」「女の子なのに」という言葉は、言われる人だけでなく、言う人もしばることがあります。ビリーの夢は、ウィルキンソン先生、変わっていった父、そして町の人たちの支えでかないました。だれかの「好き」を応援することは、だれにでもできる共生の第一歩です。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Billy Elliot／リトル・ダンサー
製作年・国	2000年・イギリス。上映111分。日本公開：2001年。映倫：G
監督／脚本	スティーブン・ダルドリー（映画デビュー作）／リー・ホール
評価	アカデミー賞 監督賞・助演女優賞・脚本賞ノミネート。日本アカデミー賞 最優秀外国作品賞
主演	ジェイミー・ベル（約2,000人の候補から選ばれ、15歳で英国アカデミー賞 主演男優賞）

主なキャストと役柄

- ・ ジェイミー・ベル（ビリー役）：バレエに夢中になる11歳の少年。
- ・ ジュリー・ウォルターズ（ウィルキンソン先生役）：ビリーの才能を信じる先生。アカデミー助演女優賞ノミネート。
- ・ ゲイリー・ルイス（父役）：妻を亡くし、ストライキで苦しみながら息子の夢と向き合う。

大人になったビリー

映画の最後には、大人になったビリーが舞台に立つ場面があります。演じたのは、イギリスの有名なバレエダンサー、アダム・クーパーです。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 父と兄は、なぜビリーのバレエに反対したのだろう？

→ 炭鉱の町の「当たり前」、生活の苦しさ、「男らしさ」の思い込みを整理させる。

Q. 父の気持ちが変わったのは、どの場面？ なぜ？

→ ビリーの踊る姿を「見た」こと。知ることによって思い込みが変わる点に注目させる。

Q. 身の回りの「〇〇らしさ」の思い込みを探してみよう。

→ 具体例を挙げさせ、その思い込みがだれを苦しめるかを考えさせる。個人は特定しない。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ・ 「らしさ」の思い込みを、具体例を挙げて説明できているか。
- ・ 思い込みが言われる側・言う側の両方をしぼることに気づけているか。
- ・ だれかの「好き」を支える具体的な行動を挙げられているか。
- ・ 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。特定の子どもに注目が集まらないよう配慮する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	ワンダー 君は太陽	見た目のちがいと友だち	小学校高学年～
2	映画 聲の形	いじめと、向き合うこと	中学生～
3	ズートピア	偏見とステレオタイプ	小学生～
4	ドリーム	人種と性別の壁を越える	小学校高学年～
5	最強のふたり	障害と介助、対等な関係	中学生～
6	グリーンブック	差別と旅、友情	中学生～
7	リトル・ダンサー	「らしさ」の思い込み	小学校高学年～
8	パディントン	よそ者を受け入れる社会	小学生～

8 参考資料（主な出典）

リトル・ダンサー 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「リトル・ダンサー」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/リトル・ダンサー>

作品：映画『リトル・ダンサー』（2000年、監督スティーブン・ダルドリー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。